

湯島聖堂（昌平坂学問所跡、近代教育発祥の地）に新年挨拶

～江戸時代の孔子の論語、儒学、明治維新の文教センター～

2022年1月4日

日本 BCT・YCT 事務局

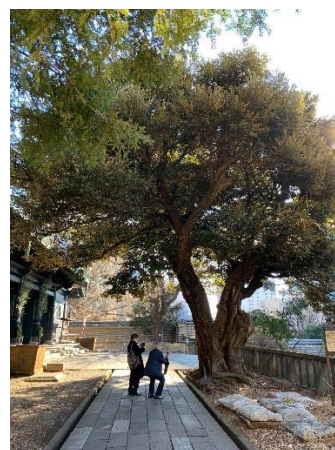
初詣に静かな文教の歴史が流れ日中教育の伝統のある湯島聖堂を訪
問しました。



(湯島聖堂 大成殿)



(聖堂内案内図と歴史)



(大成殿を見守る巨樹スダジイ)

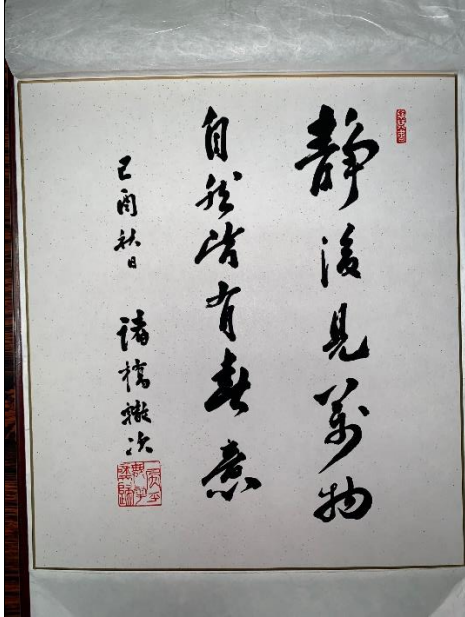
ここは、2500年ほど前、中国の昌平郷（現山東省曲阜）に生まれた孔子の教え、論語を東洋で学ぶ場所として、徳川五代将軍綱吉が1690

年に「湯島聖堂」を創建し、「大成殿」や学舎を立て学問を奨励した場所です。1797年には、徳川幕府は、建物を改築して、孔子の生まれた地名をとって昌平坂学問所を開きました。この学問所は、NHK大河ドラマとなった大実業家渋沢栄一（当社も加入している東京商工会議所を創立）の「論語とそろばん」の教育思想に大きな影響を及ぼしたと言われます。1868年の明治維新まで、日本における教育センターでした。

その後、聖堂には明治新政府が文部省を置き、大学、博物館、初の図書館も設置されました。まさに近代教育発祥の地です。今は、貴重な文化財になっております。

企業のコンプライアンスやガバナンス、起業家精神等の観点からも論語が見直されつつあり、中国語教育も関わっている日本BCIT・YCT事務局も新年の初詣ができ幸いでした。

大成殿のなかでは、歴史書や漢和辞典等で著名な色紙もあり、視察させていただきました。とくに青年時代に中国留学を果たし「大漢和辞典」等を編纂された尊敬する諸橋轍次博士の揮毫された色紙を記載します。



静後見萬物自然皆有春意
 (程伊川の言葉)
 静後万物を見れば自然に皆春意あり
 心を静かにして、その後天地間の万物
 を見ると、どこもかしこも春の陽気が立
 ちこめて、生き々と発育する姿が目前
 に現われて来る。
 その気分こそ仁者の心に一致する。

漢文字の大研究者
 諸橋徹次先生 揮毫
 諸橋徹次先生は
 子息の諸橋晋六様は
 三菱商事社長、会長、静嘉堂理事長
 も務められた。